

# 開原真弓

かいはら・まゆみ

広島県議会議員、弁護士

## 経歴

生:昭和5年(1930年)3月21日、沼隈郡瀬戸村(現福山市瀬戸町)長和生まれ

没:平成10年(1998年)9月20日、享年69歳

昭和22年(1947年)3月3日	16歳	広島県立福山誠之館中学校卒業
昭和25年(1950年)3月29日	20歳	第六高等学校卒業
昭和25年(1950年)3月～ 昭和26年(1951年)6月15日	20～ 21歳	広島県福山東高等学校(誠之館)臨時講師
昭和31年(1956年)10月	26歳	司法試験に合格
昭和36年(1961年)4月	31歳	広島弁護士会に登録、広島市で弁護士を開業
昭和42年(1967年)4月	37歳	広島弁護士会副会長
昭和50年(1975年)4月	45歳	広島県議会議員(以後5期、20年間勤続、3期にわたり自民党県議員団会長)
昭和53年(1978年)4月	48歳	広島弁護士会会長
昭和53年(1978年)4月	48歳	日本弁護士連合会副会長
平成7年(1995年)4月29日	65歳	藍綬褒章
平成10年(1996年)9月20日	68歳	勲三等瑞宝章

## 「友人との朝」

開原真弓

「一度しかない人生」、「かけがえなく与えられた自己の運命」、「継続は力なり」、「誠は天の道、これを誠にするは人の道なり」、「歩の心」、「節度と正義」、私がこよなく愛し、多くの場で使った言葉である。

私の父は84才の天寿を全うして、15年前にこの世を去ったが、国鉄に30年余勤務し、戦後食糧難の時代、4人の子供を教育するため、国鉄を退職し、農業に精励した。

真夏の太陽を全身に浴びながら働く後ろ姿が今でも私の脳裏に強く浮かび、厳しい選択を余儀なくされる時など、その影響力は大きい。

福山市に生まれ、育ち、岡山市にあった旧制六高を卒業して、すぐ母校誠之館高校に数学講師(仮免許)として就職した若者が苦学して法律を学び、難関と云われた司法試験に初挑戦で合格したのが弱冠26才の時であった。

その後友人、知己のない広島市で弁護士を開業し、爾来30余年、労働時間、健康など考える暇は全くなかった。

その中、18年間地方政治に関与し、責任政党である自由民主党県議団の団長を2度も務めるに至った。

2人の愛児に対して進路の相談にも関与しなかったが、結婚、就職も目鼻がついたと安心した瞬間、私には偉大な財産が形成されていることに気付いた。

2月の午前6時過ぎと云えば薄暗い時刻だが、開原を囲む朝食会に100人近い企業経営者が集まって朝食を共にしながら、政治、行政、文化、法律、経営など各般に亘る情報の交換を続けること長きに及んだ。

これに結集されたエネルギーの総合は並大抵のものではない。

ゲスト参集して戴いた方々の御協力と会員各位の御努力に対し衷心から御礼を申し上げたい。

4年余に及ぶ会合の積み重ねを静かに回顧し、新しい構想のもとに「続々友人との朝」に向かって精励したい。

これこそ私の人生そのものである。(後略)

平成4年8月吉日 (出典1)

出典1:『続・友人との朝』、開原真弓氏を囲む懇談会編、みずま工房刊、平成4年

出典2:『学び舎の鐘の音 いまも』、12頁、福田量二、県立福山誠之館中学「一年一組の会」編刊、平成18年4月6日

2005年5月18日更新:経歴●2005年5月19日更新:経歴●2005年6月3日更新:本文追加●2006年4月4日更新:タイトル●2006年4月27日更新:経歴・本文・出典●2006年9月19日更新:写真の追加●2008年2月4日更新:経歴・本